

Ⅶ-39

市街地のため池に対する利用者意識の研究

関西大学大学院 学生員 平野久史

関西大学工学部 正会員 和田安彦

関西大学工学部 正会員 三浦浩之

1. はじめに

市街地の公園は都市生活者にとって余暇時間の消費場所として重要な役割を担うようになり、またそれらの公園に対して親水性や自然環境への要望が高まりつつある。本研究では、市街地内の池を持つ公園を利用者がどのような目的で利用しているのかを調査した。特に池が公園の中でどのような役割を果たしているのかを調査し、利用状況から見た公園と池との位置づけを行った。

2. ため池を持つ公園の親水行動

市街地内のため池を持つ公園（K池、B池、R池、M池）を選定した。写真－1～4に示すように、K池、B池では池を囲むように公園が位置し、R池、M池では単に公園が隣接している。これらの公園の親水行動の状況を表－1に示す。釣りや池の周囲の散策以外の水との関わりは少なかった。特にM池公園、R池公園では親水行動はほとんど見られなかった。これは、ため池と公園のそれぞれがフェンスや柵によって囲まれていたり、公園のグラウンドや広場、ため池周囲の散策道とため池の水位の大きな高低差のため、利用者が水辺に対して近づきにくい状況が生じていたためである。これによって利用者が水辺から離れ、結果としてさらに水に対する関心が低下する可能性がある。そこで水辺に近づきやすい親水公園における親水行動の状況を調査し、同時に利用状況および利用者の意識調査を行った。

3. 親水公園における利用状況

前述の4つの池の親水行動の利用状況の結果を踏まえ、水辺に近づきやすい公園を選定し、その利用状況を検討した。選定したI池公園は、水生植物の植栽等による自然性が配慮され、また水辺に近づきやすくなった親水公園である（写真－5）。ここで表－2に示した項目を取り上げて、利用状況および親水行動の状況の調査を行った（図－1、図－2）。利用状況は、小中高生および20代、30代の利用が多く、コミュニケーション、運動の割合が高く、特に池の周囲の散策道を利用する利用者が多い、ということが分かった。

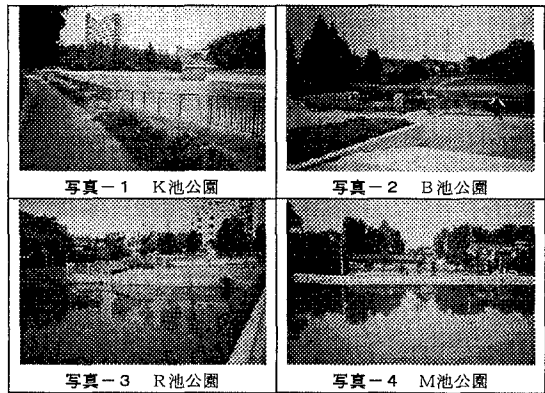


写真 調査対象池概要

表－1 利用者の親水行動の内容

調査対象公園	親水行動および利用状況
K池公園	高齢層利用者による釣りが多かった。 池周辺の散策道の利用者が多かった。
B池公園	小中学生による釣りが多く見られた。
R池公園	池と公園に地盤の高低差がある。 ほとんど親水行動は見られなかった。
M池公園	池の周囲にフェンスが張られている。 ほとんど親水行動は見られなかった。



写真－5 対象公園における親水行動

キーワード：ため池、意識調査、親水行動、親水空間

〒564 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL 06-368-0939 FAX 06-368-0980

表-2 調査対象池および公園の利用目的

利用目的	利用内容
趣味	釣り, スケッチ, スポーツ以外の練習
遊び	水辺で遊覧, 広場で遊ぶ, 遊具で遊ぶ
コミュニケーション	休憩所の利用, 子供を遊ばせる, おしゃべり, 会話, 待ち合わせ,
運動	散歩, 散歩, ジョギング, 軽い運動
休息	休む, 景色を眺める, 日向ぼっこ
その他	仕事, 公園の通り抜け, その他

< は親水行動 >

また親水行動の内容として、水辺に面した休憩所で会話や景色を眺めるといった行為が見られた。しかしI池公園でも全体の利用状況に対して、親水行動の割合は低いものであった。

図-3は利用者から見た親水公園の「よい」イメージ、「よくない」イメージに挙げられた評価である。表-3に示すように、それぞれの項目に関連があると思われるカテゴリーで分類した。利用者は、自然環境の存在、風景をよいと評価し、また「水」に対してはよくないと評価する傾向があった。水の色、におい、汚れがマイナスのイメージとなり、親水空間において水辺のある環境そのものがあまり評価されなかったと考えられる。

図-4に公園に対する要望を示す。この結果では、いずれの年代においても、自然環境に対する要望の割合が高く、新たな親水施設の設置、水質の改善等の「水」に関わる要望は、若年齢層と高齢層に見られただけであった。また低年齢層では、遊具等の増設に対する要望が多かった。

利用者の評価と利用状況から判断すると、利用者が集える公園としては効果を上げているが、親水空間としての機能は十分に果たせていないと考える。

4. おわりに

本調査では、親水公園において直接的、間接的に水と接するという行為はほとんど見られなかった。また「水」に対してはよくない評価、自然環境や風景にはよい評価が集中した。このことから利用者は、風景の中に水辺があり、緑地や小動物や魚の棲む自然環境があるという親水空間を望んでいるということが考えられる。利用者にとって利用しやすい親水公園とは、「水に触れることのできる公園」という概念よりも、自然環境が存在し、子供たちが遊んだり、景色を眺めたり、散歩や運動ができる広くて落ち着ける空間が重要であるということが明らかとなった。

【参考文献】1)花岡, 大山, 近藤: 地方都市圏における都市公園の使われ方に関する研究, 第29回日本都市計画学会研究論文集, pp. 379-384, 1994. 2)島谷, 保持, 千田: 親水活動と河川水質に関する研究, 環境システム研究, Vol. 20, pp. 378-385, 1992.

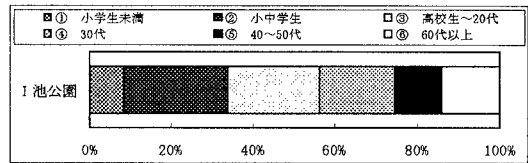


図-1 対象親水公園の利用者年代別割合

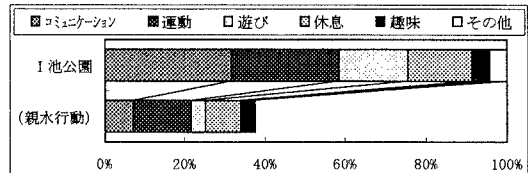


図-2 親水公園利用者の利用目的別割合（複数回答）

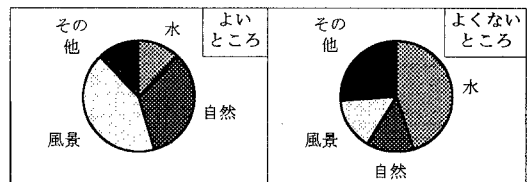


図-3 利用者から見た親水公園のイメージ

表-3 カテゴリー分類

項目	主な内容
水	水質: 水の色, 透明度, 水の汚れに関する事象 水の動き: 水の流動, 流入等の水の流れに関する事象
自然	自然環境: 自然そのもの, 人為的な要素が加わっていないもの 動物・植物: 動植物の存在, 植物, 動物そのものに関する事象
風景	景観: 風景, 景観, 見た目に関する事象 施設・設備: 施設との調和, 配置あるいはそれに関する事象

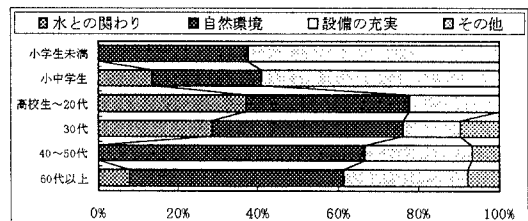


図-4 利用者から見た親水公園に対する要望（複数回答）